

問1 奈良時代に行われていた、土地を人々に配り、その人が亡くなると国に返還させる仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。（2017年 岡山公立入試 類似）

- この仕組みは班田収授法と呼ばれ、口分田を貸し与えるために6年ごとに戸籍が作られた。
- この仕組みは墾田永年私財法と呼ばれ、新しく開墾した土地を永久に私有することが認められた。
- この仕組みは公地公民と呼ばれ、武士が農民から年貢を取り立てる権利を国家が保証した。
- この仕組みは地租改正と呼ばれ、土地の価格に応じた現金を政府に納めることが義務付けられた。

問2 日本の仏教文化における彫刻作品について、製作された時期とその特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 福島公立入試 類似）

- 奈良時代の天平文化において、興福寺の阿修羅像のように、写実的で繊細な表現の仏像が作られた。
- 飛鳥文化において、東大寺南大門に安置されている金剛力士像のように、力強く筋肉質な仏像が作られた。
- 平安時代の国風文化において、広隆寺にある弥勒菩薩像のように、指先を頬にあてて思索にふける姿の仏像が作られた。
- 鎌倉文化において、平等院鳳凰堂に安置されている阿彌陀如来像のように、穏やかで優美な表現の仏像が作られた。

問3 墾田永年私財法が出されたあとの社会の変化について、最も適切な説明はどれですか。（2019年 埼玉県公立入試 類似）

- 貴族や寺院が周辺の農民や浮浪した人々を使って大規模な開墾を進め、私有地である荘園を形成した。
- 商業を営む商人が同業者組織である座を結成し、幕府から独占販売の権限を得るようになった。
- 有力な農民たちが株仲間の結成を認められ、問屋制家内工業を発展させた。
- 武士の領地が細分化されるのを防ぐため、長男のみが土地を継承する単独相続が一般的になった。

問4 弥生時代から奈良時代にかけての歴史的推移をまとめた資料において、金印の授受、渡来人の活動、貨幣の鑄造に関する記述の組み合わせとして、歴史的事実に基づいているものはどれですか。（2019年 鹿児島県公立入試 類似）

- 金印によって中国との外交を行い、後に渡来人から漢字や儒教などの文化が伝えられ、律令国家の形成期に富本銭や和同開珎が作られた。
- 金印が授けられる前に富本銭が作られており、それらの貿易を支えるために渡来人が仏教を日本へ持ち込んだ。
- 和同開珎が鑄造された後に、その技術を学んだ倭の王が中国へ渡り、漢の皇帝から金印を授けられた。
- 渡来人がもたらしたインダス文字が金印に刻まれており、その文字を広く普及させるために富本銭や和同開珎などの貨幣が発行された。

問5 律令制度下の土地の仕組みにおいて、6歳以上の男女に与えられ、死後には政府へ返却することが定められていた土地を「口分田」と呼びます。この口分田の運用実態に関する説明として正しいものはどれですか。（2018年 香川公立入試 類似）

- 売買や譲渡が自由に行える、個人の完全な私有地であった。
- 本人が死亡した後も、子孫が代々耕作権を引き継ぐことが認められた。
- 6年ごとに作成される戸籍に基づいて、人々に配分される仕組みであった。
- 新しく開墾した者が、永久に自分の土地にできる制度に基づいた土地であった。

問6 奈良時代にまとめられた日本最古の和歌集について、その特徴を説明した文として正しいものを選びなさい。（2024年 岡山公立入試 類似）

- 天皇や貴族だけでなく、防人や農民といった幅広い階層の人々の歌が収められている。
- 清少納言によって書かれた、宮中の様子や四季の情景を綴った随筆である。
- 紀貫之らによって編集された、最初の勅撰和歌集である。
- 鎌倉時代に兼好法師によって書かれた、仏教的な無常観を背景とした随筆である。

問7 聖武天皇の時代に、当初は政府から弾圧されていた僧侶の行基が、後に高い位を与えられて大仏の造立に協力することになった理由として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 佐賀公立入試 類似）

- 民衆の間で大きな影響力を持っており、大規模な工事に必要な人手や資金を集める役割を期待されたから
- 遣唐使として唐に渡り、最新の建築技術や土木技術を日本に初めて持ち帰った功績が認められたから
- 地方の国府や国分寺の周辺で発生した反乱を、仏教の教えを用いて鎮圧することに成功したから
- 鎌倉時代に新仏教を興した開祖たちと同様に、厳しい修行を通じて国家の安泰を祈願したから

答え合わせ・解説

問1	答え 1 この仕組みは班田収授法と呼ばれ、口分田を貸し与えるために6年ごとに戸籍が作られた。	律令国家では「班田収授法」に基づき、6歳以上の男女に口分田が与えられました。公平に土地を配分・回収するため、6年ごとに現状を把握するための戸籍が作成されました。選択肢にある墾田永年私財法は、後に土地の私有化を認めた法律であり、班田収授法の原則とは対照的なものです。
問2	答え 1 奈良時代の天平文化において、興福寺の阿修羅像のように、写実的で繊細な表現の仏像が作られた。	天平文化は国際色豊かで写実的な表現が特徴であり、興福寺の阿修羅像はその代表例です。他の選択肢については、東大寺の金剛力士像は鎌倉時代の彫刻、広隆寺の弥勒菩薩像は飛鳥時代の彫刻、平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像は平安時代（国風文化）の彫刻であり、それぞれの時代の文化背景に基づいた特徴を持っています。
問3	答え 1 貴族や寺院が周辺の農民や浮浪した人々を使って大規模な開墾を進め、私有地である荘園を形成した。	この法令により土地の永久私有が認められたことで、財力のある貴族や大寺院は積極的に土地を開墾し、自らの私有地（初期荘園）を拡大させていきました。これにより、律令制の基本である「公地公民」の原則が実質的に崩壊し、中世の荘園公領制へとつながる大きな転換点となりました。
問4	答え 1 金印によって中国との外交を行い、後に渡来人から漢字や儒教などの文化が伝えられ、律令国家の形成期に富本銭や和同開珎が作られた。	日本の古代史は、1世紀の金印授受（中国との外交）から始まり、5世紀前後の古墳時代に渡来人が大陸の技術や文化（漢字・儒教・須恵器など）を伝え、7世紀後半から8世紀にかけて律令国家としての体制を整える一環として、富本銭や和同開珎といった貨幣が鑄造されるという流れを辿ります。金印に刻まれているのは漢字であり、インダス文字ではありません。
問5	答え 3 6年ごとに作成される戸籍に基づいて、人々に配分される仕組みであった。	律令制度における口分田は、国家から一時的に貸し与えられた土地という性質を持っていました。政府は正確な人数や年齢を把握するために6年ごとに「戸籍」を作成し、それをもとに公平に配分し直す班田収授を行いました。後に認められる「墾田永年私財法」のような土地の私有化とは異なり、個人の売買や世襲は原則として禁じられていた点が特徴です。
問6	答え 1 天皇や貴族だけでなく、防人や農民といった幅広い階層の人々の歌が収められている。	万葉集は奈良時代末期に成立したとされる日本最古の和歌集です。約4500首もの歌が収録されており、その作者が天皇や貴族といった有力者だけでなく、九州の警備に当たった防人（さきもり）や東国の人々（東歌）など、身分を問わず多岐にわたっている点が大きな特徴です。当時の人々の素朴な感情や生活が直接的に表現されています。
問7	答え 1 民衆の間で大きな影響力を持っており、大規模な工事に必要な人手や資金を集める役割を期待されたから	聖武天皇は仏教の力で国を安定させようと大仏の造立を計画しましたが、それには膨大な労働力と寄付（資金）が必要でした。政府は、かつては弾圧していたものの、民衆から絶大な支持を受け、橋やため池の建設を指揮していた行基の協力なしには、この国家的な大事業を完遂できないと判断して彼を重用しました。